

## 消防 2 年目を迎えて

志津消防署志津南出張所

消防士 北原 龍之

私は救急救命士を志して専門学校を卒業し昨年佐倉市八街市酒々井町消防組合消防本部に採用されました。半年間の厳しい消防学校生活を終え、はれて消防士としての第一歩を踏み出しました。火災出動や救急出動などあらゆることが初めての経験で目まぐるしく変わる毎日を過ごすだけで精一杯でした。長年の夢であった消防士になりあっと言う間に 2 年が過ぎようとしています。消防の中でも救急を志望していた私はある程度の救急に関する知識や技術を持っていたつもりでした。しかし救急隊に配属されて出動した際に全て崩れ去りました。処置や観察が不十分なだけでなく、私の不用意な一言でただでさえ動揺している傷病者を不安にさせてしまったこともありました。咄嗟に隊長が今の状態や疑われる疾患の説明を丁寧にわかりやすく話しかけ傷病者を安心させて平静を取り戻しましたが、私はその時切迫している現場で救急隊員がかける言葉は傷病者を必要以上に不安な気持ちにさせたり、逆に不安を軽減させたりすることが出来ることを学び、諸先輩方の迅速かつ的確な現場対応に目を見張るばかりでした。自分の救急隊員としての知識や技術の無さだけでなく経験不足を痛感せずにはいられませんでした。

消防士の仕事は現場活動だけではなく要望があれば地域の方たちに心肺蘇生法や AED の講習も行います。私も地域住民に指導を行う中で人に教える難しさを感じています。専門用語を使って説明してしまったり、自分本位で講習を進行してしまうことがあります。人に何かを教えたり伝えたりする為には自分自身がまずしっかり知識を咀嚼し理解して自分のものにしていなければならないことはもちろん、その人に合った指導法をしていかなければならないのだと思いました。指導をしている中で実際目の前で人が倒れたら講習通り出来る自信がないという声をよく耳にします。そんな時私は

ある救急出動で心肺蘇生法を行いつつ AED を使用し、後日社会復帰をして消防署に挨拶に来ていただいた方の話をします。そのときの笑顔は今でも忘れることが出来ません。重要なことは今から覚える心肺蘇生法は「倒れた人の運命を変えることが出来る」という意識を持ってもらうことなのです。これからの指導法は緊張感を持って講習に臨んでもらう為に 119 番通報して現場の状況を伝えてもらい口頭指導通りに心肺蘇生法を行う訓練を試みたり、症例や場所などの付加想定を加えた指導をしていきたいです。例えばトイレに入っているときに意識がなくなった場合や入浴中に意識がなくなったなど生活の中で起こりうるもので実際の現場に近い形での講習を行います。こうすることでバイスタンダーの育成に繋がり有効な CPR が行われれば、救命率の向上が望めます。

火災出動や救急出動には一つとして同じ現場はなく、活動する難しさを痛感しています。しかし人を救いたい、人の役に立ちたいという気持ちに変わりはありません。時には人の死に直面し自分の無力さに落ち込んでしまうこともあるでしょう。私は現場で得た経験を次の現場で活かせるように常に心掛け、諸先輩方に叱咤激励されながらこれからも 119 番通報した方の気持ちを考え救急搬送の質を高めるために研鑽を積み、日々成長していきたいと思えます。